



## ご挨拶

この度は、12日の未明から関東に上陸した台風19号により、東日本の多くの河川が氾濫し広範囲にわたって水害が発生しました。被災された多くの方に、心よりお見舞い申し上げます。久斗川も、平成2年9月に台風19号による記録的な大雨で堤防が決壊し、大きな被害が出ました。最近では平成16年10月に、台風23号による円山川の氾濫で豊岡市の水害が記憶に新しく、とても他人事と思えません。いつ起きるか判らない災害に対し、日ごろから備えましょう。

## 【1年の吉兆を占う神事、10月1日 大杉神社の祭礼】

毎年、10月1日は久斗山の大杉神社、境神社他の秋祭りです。今年は、9月29日の早朝には村人総出で幟を建てたり、境内の掃除をして祭りの準備を行いました。祭り当日は、秋晴れのいい天気になりました。これまでは榊の輿や子供神輿が出ていましたが、今年は忌中の家が多く、中止になって、少し寂しい祭りでした。

大杉神社の社殿の裏手には、樹齢700年以上のヒノキの巨木が屹立しています。このご神木の根本には、壺が埋めてあり、その中にはどぶろくが仕込んであります。祭りの日の午後、境内で神事を行った後に神主さんや村役で、この酒壺の中身を確認します。このどぶろくの状態で、その年の吉兆を占います。上水が澄み、上手く麹が酒になっていれば“吉”腐って悪臭がしていれば“兆”……はたして今年はどっち？

今年は、暖冬で雪がほとんど積らず、夏は猛暑だったので、誰もが壺の中身が腐っているのではと心配しました。しかし、蓋を開けてみると上水は澄み、すくって杯に入れて匂いを嗅ぐと酒臭がして、口に含むと少し酸味がしましたがちゃんとお酒の味がしました。今年は“吉”、いい一年になります。



9月29日、村人総出で祭り準備



午後、境内の結界の中で神事が行われた。



壺のどぶろくは澄んでお酒になっていた。  
占った後は、再び笹の葉で蓋を

## 【令和元年度 久斗山・境地区合同運動会&ふれあい交流会の開催】

14日の体育の日、「令和元年度久斗山・境地区合同運動会」が開催され、その後でふれあい交流会が行われました。

当日は、全国に被害をもたらした台風19号の通過直後で天候が少し不安定だったこともあって、体育館での開催となりました。久斗山むらおこし委員と境の役員は、朝8時より久斗山地区公民館に集まり、運動会の準備を行いました。午前9時過ぎに開会、村人も多数集まり、池ヶ平の安泰寺からも、ドイツやキルギス、セルビアなどの外国から来てる人も参加して、最初の演技から早くも盛り上がりました。

ラジオ体操から始まり、子ども演技や地区対抗競技、パン食い競争まで6種目が終わった時点で、15分間の休憩を入れ、その後に地区対抗の玉入れやリレーを行い、10種目の競技が終わったのは、11時を過ぎていました。

(地区対抗競技の成績)

③モップ競争:1位、本谷・久斗山上 2位、久斗山下・安泰寺

⑨玉入れ:1位、境、大味、中小屋(53個) 2位、久斗山下・安泰寺(46個)

⑩リレー:1位、本谷・久斗山上 2位、久斗山下・安泰寺

●総合優勝:本谷・久斗山上 ○準優勝:久斗山下・安泰寺

運動会が終わってから、ふれあい交流会が行われました。

もちつきや具沢山汁、炊き込みご飯のおにぎり、それに安泰寺より猪肉のローストやシカ肉のシチューの差し入れがあり、美味しくいただきながら、村人みなさんで交流を深め、楽しい時間を過ごしました。



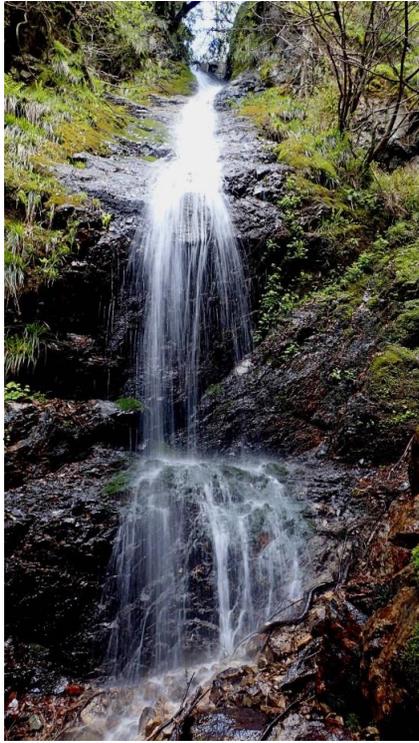
ふれあい交流会の様子

**【地元、久斗山地区の魅力紹介 その1：滝編】**

久斗山地区に子供の頃からずっと住んでいると、あまりに身近すぎてその魅力に気づかないことがあります。けれど、よその地区や都会の人とかからしてみれば「おっ！スゴいやん」というような場所や、物があるんですね～それを、機会をみて少しずつご紹介していきたいと思います。まず今回は久斗川にある滝です。

**○本谷の大滝 →**

本谷の「創造の森」の長屋の小屋が建っている尾根の先端より、木の間から全貌が見えます。さらに広場の下より、滝の直下まで行く道があります。最近に行く人もいませんが、水量の多い時はけっこう迫力のある滝です。



**○どうどの滝 ↓**

久斗山の村の上、本流にイモジの谷が合流するちょっと上にある滝です。花崗岩が峡谷のようになり、その間に落ちる水流が変わった景観を作り出しています。

名前の由来は、滝の音がドードー聞こえるから。



**○ 11月の行事**

- 3日(日) 文化の日 新温泉町文化祭 作品展
- 4日(月) 新温泉町文化祭 舞台発表
- 16日(土) 上山高原ふるさと講座
- 24日(日) 子ども自然教室「つる籠づくり教室」(午前9:00～11:00 久斗山地区公民館)



**特別展のお知らせ**

**「お城ができる前の姫路」**

姫路の魅力 再発見！

※兵庫県立歴史博物館より、お知らせです。

○特別展：10月5日(土)～11月24日(日)

**【関連事業】**

・特別講演会

11月10日(日)14:00～15:30  
博物館地階ホール

・現地見学会

11月4日(月)13:30～15:30  
博物館から播磨国総社まで徒歩

・れきはくアカデミー

11月23日(土)14:00～14:30  
博物館地階ホール

**【問い合わせ・申込み】**

兵庫県立歴史博物館 TEL079-288-9011

**今月の野草**

ミソソバ

ピンク色の花が金平糖のような塊になる。

秋になると田んぼの水路や水辺に金平糖に似た、ピンク色の小さな花の塊を沢山つけた草が茂ります。草丈は膝ぐらいいまであり、茎に棘があってもざらざらして、皮膚を傷つけることもあります。

名前の由来は、葉や草の茂った様子が蕎麦に似てるから、でも久斗山では、ぎゃくろぐさ(カエル草の意味)と呼ばれます。

**かってに昔話**  
大ヒノキの声(第一話) 作、いっこう

久斗山の杉神社には、社殿の背後に大きな杉の巨木が立っています。村を守るように見下ろしています。樹齢は七百年以上とも言われ、北側の幹は、長年の季節風と吹きこむ雨で枯れて腐って穴が開いています。今も堂々とした姿を保っています。今回は、この大杉にまつわるお話です。

テレビもラジオも、ましてや携帯電話も何にもない昔のこと、久斗山の村の真ん中を流れる久斗川は何度か大水が出て、家や人が流される大きな被害が度々出ていました。そんな大水で、家と一緒に両親も失い、まだ六歳で孤児となつた玄太は、村内の親戚の家で面倒見てもらえることになりました。でも、その親戚も貧しく、余計な居候である玄太に厳しくあたり、毎日、牛の世話や、畑や田んぼの農作業にこき使っていました。

ある日、朝早くから畑で草取りして玄太は、ふと手を止めて、大杉神社の大杉を見上げました。すると、心の中に暖かいものが流れて込んで、大杉が自分を呼んでいるような気がして、いつの間にかふらふらと大杉神社の境内に入り、大杉の幹に触れていました。

目を上にやると、大杉の幹に穴が開いていて、入れそうです。玄太はその穴に入ってみました。穴の中は、杉のいい香りがして、底はふかふかとやわらかく、そこに足を曲げて腰を下ろすととても気持ちもよく、早朝からの畑仕事の疲れもあって、玄太はいつしか眠っていました。(つづく)